

## 母校野球部創部 120 周年記念講演会が開催される！

田村栄治（1組、野球部OB）

2年間延期されていた上田高校野球部創部 120 周年記念講演会が、12月4日（日）、上田文化会館で現役の野球部員や野球部OBを中心に約 100 人が集まって開催されました。

開会前には、甲子園第1回出場（昭和32年）、第2回出場（昭和62年）の放送ビデオと校歌が流れ、ムードが大いに盛り上がった中で講演会が始まりました。

<https://www.ueda-baseball-ob.com/>

第1部では明治大学野球部で投手として活躍した丸山清光さん（70期）による「上田高校野球部創部 120 周年に寄せて～高校野球新時代へ～」と題した講演です。〈丸山さんには、一昨年1月の関東同窓会新年会でも講演をしてもらいました。また、20年9月に上梓された丸山さん著『なんとかせい！島岡御大の置き手紙』（文藝春秋）の中でも、母校野球部の話が出てくるので、関心のある方にはお薦めです。（編集注）〉

以下、その講演内容から記憶に残った話を記します。

◎明治36年に行われた早慶第1戦の先発メンバーに、2名の母校出身者が慶応の選手として出場しています。それも主将で4番二塁手の宮原清さん（支校修業）と早慶戦最初の勝利投手の櫻井弥一郎氏さん（1期）が……。この二人は、後に野球殿堂入りしています。

◎最初の甲子園出場は当時の中沢睦次郎校長が、昭和28年に甲子園請負人？である木村頌一氏を監督として招聘したことから実現しました。

◎甲子園初出場の際、木村監督はユニフォームを新調させず。理由は相手を田舎の学校と油断させる？狙いがありました。また、5人もの選手が眼鏡をかけてベンチに座っている写真を紹介。相手チームには、ひ弱な進学校の野球チームと映ったか？

◎母校の上位戦績の紹介

☆戦前 準優勝 1回

☆戦後 県大会優勝 8回、県大会準優勝 6回、県大会ベスト4 11回  
北信越・信越大会出場 14回（優勝2回、準優勝1回、ベスト4 3回）  
選手権大会全国大会出場 2回（昭和32年、昭和62年）

（県大会優勝が8回もあるが当時は甲子園に行けたのは県1校ではなかった）

◎プロ野球に関わった上田高校野球部出身者として、二人を紹介。

王貞治氏の715号ホームランと800号の球審を務めた丸山博さん（49期）とヤクルト球団専務を務めた倉島今朝徳さんです。（58期、甲子園初出場の時の捕手）

◎最後に、これから上田高校野球部を目指す君へと題し、後輩部員へ

明大時代に指導を受けた御大・島岡吉郎監督の「勝ち癖をつける」という言葉を引き合いに出し、「勝ちたいというビジョンづくりが必要」と力説。

同じ東信地区の強豪私立校の佐久長聖と上田西の2校に勝つことに絞ることを提案。データの収集と分析の必要性、そして反復練習の大切さを説きました。

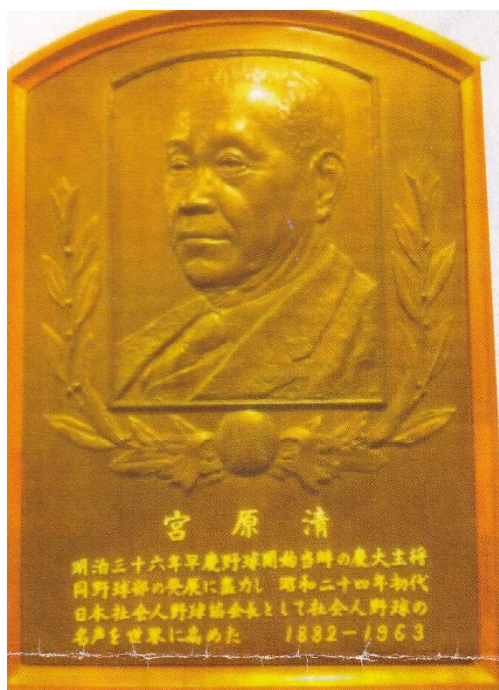
第2部では信越放送アナウンサーの中澤佳子さん(89期)が司会を務め、東京六大学野球でプレーした若手OB5人による座談会「東京六大学野球部出身者に聞く“高校野球”とは」が行われました。

その中で、東京大学野球部OBの児玉光史氏さん(95期)が「高校では最後の大会以外レギュラーではなかったが、東大では1年春から試合に出られた。東大に入れば直ぐに出られる」と後輩を勧誘。

立教大学野球部OBの花岡大志さん(112期)は「野球一流高校出身の選手と一緒に練習して自分も上手くなった」と大学で野球を続けることのメリットを強調。

こうした野球部先輩の話を実役野球部員たちは熱心に聞き入っていました。

【写真】野球殿堂入りした宮原清さんと櫻井彌一郎さんのレリーフ



(2022年12月24日記)

以上